

「柏の葉キャンパスシティにおけるスマートシティへの取組み」

～後編：柏の葉スマートシティプロジェクトの特徴と今後の課題～

我々、JMACエネルギー産業支援チームは、エネルギー産業に関わる企業の事業機会、事業化推進上の課題探索ならびにその解決のためのソリューション開発をミッションとしている。現在は、今後のエネルギーミックスのあり方やスマートグリッド・スマートコミュニティが実現した社会を見据え、地域毎に事業者や住民の今後のニーズはどのようなものになるのかを日々議論、研究している。その活動の一環で、スマートコミュニティやスマートシティ実現に向けた日本全国の取組み先進地域を実際に訪れ、取組みの内容や推進上の課題について取材し情報発信を行っている。

今回は、公共機関、大学、民間企業が連携し推進している「柏の葉スマートシティプロジェクト」について、民間企業の立場でプロジェクトをリードする三井不動産株式会社の柏の葉キャンパスシティプロジェクト推進部長 河合 淳也 氏にご協力いただき、現地の視察ならびに取組みについてお話を聞きました。

前回、前編として「柏の葉スマートシティプロジェクトの概要」をご紹介したが、今回は後編の「柏の葉スマートシティプロジェクトの特徴と今後の課題」についてご紹介したい。

■ 柏の葉スマートシティプロジェクトにおける取組みの特徴

前編では、プロジェクトの全容をご紹介したが、本取組みの特徴を挙げると大きく三つある。

①一つ目は、街づくりのコンセプトが非常にはっきりしている点だ。

街を未来の子供たちから預かっているという認識の下、社会的課題の解決、人が主役、成長する街、まちエコ推進をキーワードに、課題解決を実践する街づくりの実現、そして、タウンマネジメントを通じて新価値創造を行い、考える都市への進化を目指している。河合氏によれば「大学の存在は非常に大きい。民間企業は事業性の観点から街づくりを考えがちだが、住民視点での街づくりの方向への道しるべとなっていた。」とのことである。

②二つ目は、街づくりの進め方である。

「柏の葉国際キャンパスタウン構想」の種々な取組みは、前述の通り、公共（千葉県、柏市、柏商工会議所、大学（東京大学、千葉大学）、田中地域ふるさと協議会他、民間（三井不動産、首都圏新都市鉄道をはじめとした民間企業）が、それぞれの得意分野のコーディネーターやプロデューサーとなって、市民参加型の活動を推進している。

例えば、環境共生都市に向けたCO₂見える化プロジェクトは、地域のイベントといった住民との交流の場を通じて、マンション住民の方々に、三井不動産の社員がモニター実証への参加を呼びかけることにより実現した。その実証結果や住民の声に基づき、第二期建設のマンションへの新たな機器やシステムの採用が決まったそうである。

このような活動が、さまざまな組織主導で同時並行的に続けられており、全体の活動共有は年二回の全体会議や冊子作成ということである。そこで我々から、「スマートコミュニティやシティ実現に向けた取組みを推進する際に見られる、月一回程度開催のプロジェクト推進協議会のような体制や会議体がないのか」聞いてみたところ、河合氏によればそのようなものは特に存在しないということだった。

③そこで三つ目の特徴として見えてきたのが、活動の拠点となっている「柏の葉アーバンデザインセンター（以後UDCK）」の存在だ。

UDCKは、端的に言うと地域主体で街を創造する拠点である。柏の葉キャンパス駅前にあり、公民学の各構成団体の運営委員により構成される専任スタッフが、日常的にまちづくり・地域活性化のための個々の活動支援と方向づけを行っている。



市民が集う柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)

つまり、一過性の組織ではなく、長期にわたるまちづくりの企画・調整機能を担っているのだ。UDCKでは、市民を対象としたまちづくりの担い手育成を目的とした”まちづくりスクール”、人と人をつなぐその数26にも及ぶ”まちのクラブ活動”、柏の葉キャンパス駅前を舞台にした月一回のイベント:”マルシェ・コロール”の企画会合等々、さまざまな活動が日々行われている。

このような拠点施設・組織は、日本のみならず世界でもめずらしく、毎年多くの国から要人が視察に訪れているとのことである。

■今後の課題について

最後に、改めて今後の課題認識について河合氏にお聞きした。

「これまで地域主体で公民学が一体となってチャレンジをしながらプロジェクトを推進してきた結果として、“もっと自然体で環境配慮型の暮らしへの取り組みができるのではないか”といったご意見や、“柏の葉キャンパスシティのように新しい街ではなく、既存の街でどのような取り組みができるのか”といったお問い合わせをいただくようになったこと。



三井不動産(株)
柏の葉キャンパスシティプロジェクト
推進部長 河合淳也氏

このように市民の方自らが主役となりスマートシティを形作っていくという流れになることが理想であり、スマートシティという考え方を、より多くの住民の方々と共有していくことが今後も重要である。また、インフラ整備においても、地産地消のエリアエネルギー管理システム実現に向けて、住民とコミュニティソーラー事業の検討を行ったり、設備機器といったハード面の開発は大手企業、システム化のための種々ソフト開発は地元企業といった役割分担をしながら、イノベーションの創出と地域活性化に取り組んでいる。スマートシティ実現に向けた取り組みは、我々にとっても未知の世界であり、今後もチャレンジの連続である」とのことであった。

■取材を終えて

スマエネ通信は今回で4回目の発信となるが、今回の取材を通じて新鮮に感じた点は、以下の3点である。

1. 東京大学や千葉大学といった環境・健康・新事業創造に関する専門家ならびに三井不動産という民間企業であり、かつ都市開発の専門家がプロジェクト推進上大きな役割を担っていること。
2. 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」に基づき、公民学それぞれの視点で必要と考える活動が生まれ、相互に緩やかに連携しながら、進められていること。
3. UDCKという地域主体で街を創造する拠点を、公民学それぞれの立場の市民が、それぞれの活動の拠点として積極的に活用しながら推進していること。

これらが我々に示唆していることは、スマートシティやスマートコミュニティを実現するプロセスでは、地域の課題解決を先導するリーダー、明確な地域のあるべき姿、あるべき姿実現のための活動拠点と組織の存在が重要な意味を持つということなのかもしれない。

※柏の葉スマートシティの仕組み・取組み・魅力については柏の葉キャンパス駅すぐの柏の葉スマートシティミュージアム(有料)で体感的に触れることができる。

詳細はこちらをご覧ください↓

<http://www.mitsuifudosan.co.jp/kashiwanoha/museum/index.html>

文責: 江原 央樹
田中 強志
野田 真吾